

令和3年度事業計画

一般財団法人日本ボクシングコミッション

JBCは、平成25年7月1日の一般財団移行後、従前の業務を見直し適正化を図る観点から、業務管理においては就業規則の改正を初め各種規定を改正・新設し、試合運営管理においては公平で適切な管理を目指し、また選手の健康管理を徹底する等、各業務の適正化を推進してきました。また平成31年1月1日よりJBC公式試合ルールも改正し、選手の健康管理・安全管理の意識を高めるとともに各種ライセンス取得者の役割をより明確にしました。また令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から興行の自粛が6月末日まで続きました。各種スポーツ団体の模範となるべく、日本プロボクシング協会とともに興行実施に向け、ガイドラインの策定ならびにPCR検査等の実施を行い、厳格ルールのもと、興行再開に至りました。令和3年度は新型コロナ禍がどのように収束していくのかわかりませんが、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対策を講じつつ、以下のことを事業計画として行います。

1 ボクシング年間優秀選手表彰式の開催について

- (1) 新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、例年東京ドームホテルにて開催を予定している表彰式を取止め、発表のみを行う。
- (2) プロボクサーおよびボクシング関係功労者の表彰を発表する。

2 業務管理

- (1) さらなる経費の節減を図る。
- (2) 業務管理の適正化をさらに推進する。
- (3) 職員の年間業務目標を設定し、達成度を検証する。
- (4) JBCの連絡体制、情報管理を更に強化する。

3 試合運営管理

- (1) プロモーター、オーナー、マネージャー、プロボクサー、トレーナー、セコンド、試合役員等ボクシング関係者に対する資格審査ならびにライセンスの発行業務を行う。
- (2) プロボクシング試合開催に対する承認および試合の運営管理を行う。
- (3) 日本ランキングを決定し（ランキング委員会）、発表する。
日本タイトル挑戦資格者は12位までとし、それ以下のランキングも発表する
- (4) 女子日本ランキングを決定し（ランキング委員会）、発表する。
- (5) 試合役員研修会（月例）の協力をする。
審判技術の向上、安全対策その他試合全般に対しての研修を行う。特に地区試合役員会との交流を通じて技術研修の強化を図る。昨年度も引き続き、定期的に審判員の相互派遣のほか、タイムキーパーの積極的な交流も行った。
構成：審判、進行、アナウンサー、タイムキーパー、ドクター他コミッション役員、日本プロボクシング協会役員（オブザーバー）
- (6) コロナ禍での試合管理体制・実施体制を検証する。
- (7) ボクサーとマネージャーの契約年数、契約年月日をライセンスカードに提示していく。

4 選手の健康管理及び安全防護

- (1) リング事故防止のために安全対策、並びにこれらに関する諸規則の周知徹底を図る。具体策としては、以下の通りである。
 - ① 試合出場選手の健康管理について、指導強化の継続と、一元管理化を推進していく。
 - ② ヘッドバッティングなど対戦者に深刻なダメージを与える重大反則には厳しく対処する。そのためにレフェリーを始め関係者に対する指導を徹底する。
 - ③ 早期のレフェリーストップによって頭部外傷等のリング事故防止に努める。
 - ④ 新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、PCR 検査、抗原検査、抗体検査などの検査について、改めて検証を行うとともに、検査機関の選定や全国的な検査統一基準の作成を行うなど、新たな危機管理の徹底を行うとともに、意識改革の議論を進めていく。
- (2) 試合でダメージを受けたボクサーに対して頭部CT（又は頭部MRI）を含む精密検査の実施により、二次的なダメージの防止に努める。また、昨年コミッションドクターと試合をするプロボクサーとしての健康管理基準を明確にするため整備された医事運営規則を厳守し、事故の事前防止を強化していく。
- (3) 健康管理への促進
安全に関する国内外の情報、資料の収集をはじめ、他スポーツ団体の取組等を研究し、日本プロボクシング界の健康管理の参考とする。
- (4) 安全防護・健康管理に対して日本プロボクシング協会（JPBA）との共催で合同医事講習会を開催し、プロボクシング関係者の健康管理にする意識、知識を高め、事故防止、安全防護の徹底を図る。昨年度はコロナの影響もあり、全国的に医事講習会を開催できなかったが、令和3年はコロナの感染状況に鑑みながら、医事講習会の開催を検討していく。
- (5) 各地区のコミッションドクターによる情報交換、情報共有を図る。
- (6) 網膜剥離や網膜裂孔を患ったボクサーについて
網膜剥離や網膜裂孔により現役引退を余儀なくされたボクサーの復帰について、JBC指定の大学病院にて検診を受け、何人かのボクサーが復帰を果たした。今後も復帰した選手の動向を追いながら、改めて検証を行っていきたい。
- (7) 試合中に硬膜下血腫を患った選手の追跡調査を行い、今後の健康管理・安全防護に役立てたい。

5 ジュニアチャンピオンリーグ（旧 U-15 大会：協会主催）への協力

昨年度はコロナの影響で実施できなかったJPBAが主催するジュニアチャンピオンリーグに関しては、コロナの影響もあり開催は未定だが、実施の際には積極的に協力し、健康管理等 安全な試合運営が出来る様にサポートして行く。またアマチュアボクシング連盟主催のアンダージュニアの大会勝者との対抗戦や交流など、積極的にアマチュア連盟とも振興・交流を深めるために努力する。

6 暴排の徹底

- (1) ライセンス発行時において、暴排確約書提出の義務化を徹底する。
- (2) 関係諸機関の協力により、暴排についての連携を深めていく。
- (3) J P B Aに対して協力と周知徹底を指導する。

7 国際交流の推進

- (1) W B A（世界ボクシング協会）第 99 回年次総会開催予定。
- (2) W B C（世界ボクシング評議会）第 57 回年次総会開催予定。
- (3) I B F（国際ボクシング連盟）第 38 回年次総会開催予定。
- (4) W B O（世界ボクシング機構）第 34 回年次総会開催予定。
- (5) O P B F（東洋太平洋ボクシング連盟）第 60 回年次総会開催予定。
- (6) 前記の世界タイトル認定団体ならびに加盟諸国との連携を密にし、相互の友好促進情報の共有をはかっている。
- (7) O P B F 本部国は、令和 3 年からオーストラリアとなる。

8 世界のプロボクシングに関する調査、研究

変わりゆく世界のプロボクシングに対し情報を収集し、対応を図っていく。

9 情報の発信

ホームページの活用。昨年からは機関誌（ボクシング広報）を web 広報とし、広く情報を発信していくとともにスピード感を持って情報を発信してきた。また選手の移籍情報などもホームページで公開し、情報公開の点でもスピード感をもって発信できている。またボクシング年鑑発行をし、プロボクシングに対する認知、理解を進めていく。またボクシング検定にも協力し、新規ファン開拓にも積極的に関わっていく。

10 その他

ボクシングを通して青少年の健全な育成に資するために協力していく。また、法務省の推進する「社会を明るくする運動」に引き続き協力するなど、社会貢献に有意義な行事事業に積極的に参加・協力をしていく。